



(発行所)  
 青山同窓会  
 〒951 新潟市関屋下川原町2-635  
 新潟県立新潟高等学校内  
 TEL 025-266-5268  
 FAX 025-266-5268  
 (編集、発行人)  
 上村光司  
 (印刷所)  
 オリオン印刷 ㈱  
 〒950 新潟市南出来島1-19-1  
 TEL 025-283-2151  
 FAX 025-283-3804



青山同窓会会長

いあいあい

### 37回 鈴木正二

街に青陵健児のポスターが見られると、総会の季節です。今年は春早々の阪神大震災で大変な被害でした。全国各地で活躍の青山同窓のことでずから、被害に遭われた方も多かったことでしょう。遅ればせながらお見舞い申し上げます。

総会をはじめいろいろな同窓会活動が盛り上がりつつあるのだと感謝しています。会員各位が、年に一度の総会

## 東京青山同窓会 新人歓迎会

母校では、皆さんご関心の校舎改築の事が現在地での改築で設計に入っております。一日も早い完成を期待しております。

総会の前に各期幹事にお集まりいただき幹事も年々盛んに、また若い人、女性も多くなりありがたいことです。これら幹事さんのご尽力で、

さる六月十六日午後六時より、恒例の「新人歓迎会」が東洋経済ビル九階ホールで盛大に開催されました。今春東京および近郊の大学や予備校で学ぶことになった新しい卒業生百三回生が招かれ、先輩たちから暖かい歓迎を受けました。男子三十六名、女子二十七名、計六十三名が参集

し、学校からは旧三年担任を代表して岡村卓二、加藤弘両先生も駆けつけました。坂井俊一氏(64回)の司会のもとに斎藤伸雄東京青山同窓会長、斎藤英四郎名誉会長の挨拶があり、そのあと「法律徒然草」と題して獨協大学法学部長金子正史氏(70回)が講演されました。私達の生

活の全ての面に法律が深くかかわっていること、また犯罪事件における別件逮捕について興味深い話をされ、現実的に即したわかりやすい法律談議に法律というものの理解が一段と深まりました。

続いて懇親会に移り、新人たちは久しぶりの再会に話はずみ、また先輩と新人が親しく杯を交わし、歓談を重ね、和気あいあいの中で、新人たちは先輩の暖かい言葉に耳を傾けておりました。同じ学舎で学んだ者同士の心の交流「青山」精神のすばらしい伝統が会場に溢れていました。

懇親会の締めくくりは校歌と応援歌の大合唱でした。中村崇君(一橋大) 江部直紀君(東工大) 竹田大作君(中央



大のリードで先輩、新人とも

にも久し振りの校歌、応援歌を心ゆくまで歌い、熱い想い出をよみがえらせていました。「青山」精神で結ばれることの素晴らしさがここにありました。

新人たちは、級友たちとの再会を喜び、先輩たちとの心の結びつきを強く感じ、三三五五夜の巷へ、二次会、三次会へと散っていききました。



### ◎校舎改築について

前号でもあらまし説明しましたが、現在地改築の線での指導の下で準備しております。去る六月に同窓会、PTA、学校ともども施設、設備の充実のため知事陳情が行われました。本年度は基本設計、八年度に実施設計、九、十年に体育館等改築の予定です。予定通りに進行すれば、十一年度生から新校舎で学べることになっていきます。グラウンドを少しでも広くとれるように、校舎を四、五階(あるいは一部六階)にすることが検討されています。校内に校舎改築準備委員会が設置され、県と連携をとりながら、生徒がさらに充実した学校生活を送れるよう検討しています。同窓の皆様からいろいろご協力をいただいておりますが、今後ともよろしくお願いいたします。

(二頁六段目につづく)

斉藤東京青山同窓会会長



# 「良寛俳画集」 出版記念会に参加して

60回 田村和郎

渡辺秀英先生の「良寛俳画集」出版記念会が、青山60回生により、六月十八日(日)夕刻ホテル湖畔で開かれた。参加者は30名余。60回生の今年の新年会は柏崎の岬館で二月半ばに行なわれ、この時も先生にお会いしているの、先生とは四か月ぶりである。

## 良寛俳画集

一方、今回の「俳画集」には序文に次のように記されている。また、先生のご挨拶もこの趣旨であった。

この度はぐつぐつと、良寛さまにわたくしどもの友だちの世界まで下りて来てもらい、ともに笑って

先生には既に平成五年に刊行された「良寛書画集」があり、この書画集は、良寛の漢詩の中から五十首を選び和歌に翻訳し、更にこの五十首の和歌のうちから二十五首を絵画に翻訳されたものである。良寛研究は年をおって盛んであるが、一面には根本資料を離れ、評論的な表面的なものに流れているのではなからうかとの先生のご心配もあり、いま一度、根本資料である良寛の漢詩に立ち帰り、良寛自身の真の声を聞いてもら



八十五翁 琴舟道人  
渡辺先生は、「俳画集」は、いたずら書きとか遊びで書いたとか言っておられるようである。

書に遊ぶと言えは書家の榊莫山を思い出すが、他の一般の人が簡単に真似できるものでもなからう。  
先生には、木耳社から発刊の「良寛歌集」・「良寛詩集」という大著がある。



私の曾祖父田村寛一郎が、

らいたいと思つたのである。長い歌よりも短い俳句にしたのも、その点にある。良寛自作の俳句も、画にしやすいものを数点とつた。漢詩や和歌などはなるべく遠慮をし、逸話などが多くなつたのもそのためである。

良寛とともに世俗の煩わしさを忘れ、のびのびと楽しく遊んでもらいたい。それが本書の望むところである。(はじめに、からの一部分)

逸話などによる俳画五十点、うち良寛の俳句は七句、父以南の句一句である。

和歌千三百余首・漢詩四百五十首の評釈、その他「いしづみ良寛」「良寛出家考」等々の著者であられる。そこまでに至つたお方の遊びというべきであらう。

八十五才の琴舟道人渡辺先生は、出版記念会当日、更に本を二冊まとめなければならぬと仰られた。私はその内容をお伺いしたが、いずれも良寛に係る研究書であり、文学者は生きていくかぎり稿債を負うものだとの感を深めるばかりであった。

## 心のふるさと・天真

(付記)

「書画集」「俳画集」いずれの出版記念会にも参加する機会に恵まれ、「書画集」には、「心のふるさと」「俳画集」には、「天真」とそれぞれ先生の書を琴舟道人の署名入りで頂戴している。

良寛の長歌「いやひこに詣て」を大きな樫の板碑にして弥彦神社に献額している(大正五年頃か)。この板額のところが渡辺先生の「良寛歌集」と「いしづみ良寛」に制作者不詳として掲載されている。

これは平成五年一月に、弥彦の万葉集の歌につながる良寛の歌を調べているうちに、先生の本をみてわかつたことである。

「俳画集」出版記念会の夜、帰ってから私は本棚から「書画集」を持ち出し、あらためて良寛の漢詩を味読したのであった。

この措置は、これまで等閑に付され勝ちだった期末考査後の、生徒の自宅学習を解消しようとする全体的な流れと相俟つて、授業時間の確保、授業の連続性をより効果的に目指そうとするためにとられたものです。

平成七年度より、母校では五分授業から六十五分授業、三学期制から二学期制へと大きく様変わりしました。六十五分という長い時間的スパンの中で生徒にじっくりと学習ひいては学問をしてもらいたいことと、月一回土曜休業から二回休業への移行による授業時数不足を解消していくための措置です。

四月から九月までを前期、十月から三月までを後期とし、大学並みの二学期制になりました。

この措置は、これまで等閑に付され勝ちだった期末考査後の、生徒の自宅学習を解消しようとする全体的な流れと相俟つて、授業時間の確保、授業の連続性をより効果的に目指そうとするためにとられたものです。

教育界は激動の時代を迎えています。時代の波に洗われながらもこれまで築かれたものを大切にしながら、新潟高校たらんと努力しております。(校内幹事 榑倉浩)

(一頁六段目よりつづく)  
◎六十五分授業・二学期制導入

# 「憲法」(第三版)

## 佐藤幸治著(64回)

元漢文職員 渡辺秀英

「天下の英才を得て之を教育するは三の楽しみなり」と『孟子』にあるが、八十五歳の老齢に達するとますますその感を深くする。

佐藤君は青山六十四回卒で、新潟マツダの田中堅一郎社長などと同級生である。西蒲原郡月潟村の僻地より通学し、刻苦勉強京都大学の法科に入り、卒業後同校に奉職して教授となり、今やわが国を代表する憲法学者となった。

『憲法』なる大著は昭和五十六年初版刊行以来数十回の印刷を重ね、このたび刻明なる増補を加えて第三版を刊行された。

本書の出版以後、日本および日本をとりまく国際社会は大きく変わりつつあるが、そうした只中であって、「立憲主義へのアフエクション」をますます強くしている。生きた「人間」の現実の日常生活に基盤をおきながら、「良き社会」の形成に向けて努力すること、そこにこそ「政治」の存在理由があり、日本国憲法はそうした「人間」と「政治」のためにこそあるという思いを一層強くしている。しかし「真の立憲政治が我が国に行はれないのは何の故か」と問われれば「一は、憲法制度を条文の解釈から観ただけで分るものではなく、憲法制度を吾々の生活から観なければならぬ。立憲政治なるものが、今や我が国民の間に大に唱道させられ又説明せられるにも拘らず、徹底しない感じのするの、恐らくは、其の観方に就てであると思う」。

今回の新版の基本的な考え



佐藤幸治教授

以下は専門外の筆者としては著書の大きな項目を紹介して終らせて頂くことにしよう。

第一編 憲法の基本観念と日本憲法の展開

憲法の基本観念、日本憲法の展開

第二編 国民主義と政治制度の展開

国民、国会、内閣、天皇、地方の政治制度

第三編 裁判所と憲法訴訟

裁判所、憲法訴訟

第四編 基本人権の保障

基本的人権総論 包括的人権 消極的権利 積極的権利 第五編 平和主義

出版社の青林書院よりは左の如く簡潔に紹介されている。

【新版】平成二年

・待望の佐藤憲法【新版】上

初版発刊以来九年。この間、司法試験をはじめ、その他各種試験の基本書として受験生に絶大な信頼を寄せられるロングセラー。

新たな憲法判例や憲法学の成果、動向を十分にとりいれ、かつ「第四編 基本人権の保障」を中心に、大幅加筆修正した。

【第三版】平成七年

司法試験をはじめ憲法学習の基本書として最も定評ある憲法体系書。最新の学説・判例の動向を踏まえ、また文中の重要判例・論点の割注を別注にして、読みやすく工夫。

わが青山の諸君もこれら優秀な先輩に続き、更に乗り越え活躍進展されんことを祈って止みません。

一 奈良市そごうデパートの建設に伴い、一九八六年から発掘調査が行なわれ、約四万点の「長屋王家木簡」や七万四千余点の「二条大路木簡」が発見されました。以後、整理が進められてきましたが、昨年一月に発表された「二条大路木簡」の中に「越後国沼足郡深江×」(写真)とある木簡が含まれていました。

一緒に出土した年紀のある木簡が全て天平七〜八年(七三五〜六)に収まるところから、本木簡もこの年次に該当するものと見られます。「沼足郡深江」の文字の出土は、以下のように、郷土新潟の起源である淳足柵設置をさらにさかのぼる貴重な発見と思われ、とうとう出土したか、と感慨一入です。

二 今からおよそ五年前の九〇年一月に、三島郡和島村の八幡林遺跡から養老年号のある「沼垂城」を記した木簡が発見され、淳足柵のその後が確かめられたことをご記憶の方も少なくないと思います。そのとき蒲原郡の青海郷少丁高志君大虫や高志君五百嶋が記した木簡も出土しました。それまでは奈良時代の末の記録に、頸城郡大領高志公船長とあることなどが知られていたため、これを高志深江国造と結びつける考えはなく、高志(越)国造と関連づけて理解していました。

しかし八幡林遺跡木簡の発見によって、蒲原郡に高志君氏のいたことが初めて知られることとなり、高志深江国造一族の子孫でないかとの推定が行なわれました。そして今度「越後国沼足郡深江×」を記した木簡が発見されたのです。この深江の後の文字は、木簡が折れている(次頁につづく)

# 「沼足郡深江」木簡の出土

―八世紀新潟周辺にいた高志深江国造―

69回 小林昌二

(前頁よりつづく)

ために明らかではありませんが、木簡の先端が尖って削られているタイプは珍しく、越前国の調という税の付札に特徴的で、北陸道の共通性があるので、同様の付札と考えられ、郡の次には郷、すなわち深江郷と記されてと推定されるものです。十世紀の『和名抄』に沼垂郡の深江郷は見られませんが、それ以前の名称変更か、あるいは再編により以後に名前を留めなくなった郷のようです。

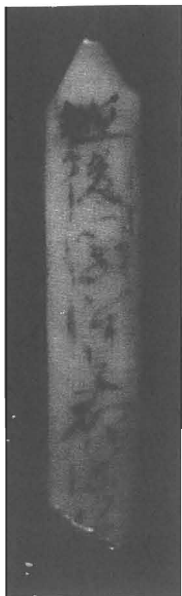
高志深江国造は、従来、信憑性の低い『先代旧事本紀』引用の「国造本紀」にしか記されなかったために、一体何処の国造かについて、現在ある深江の地名に想定するなど新潟市とは離れたところを考えることが一般的でした。しかし今、蒲原郡高志君氏と沼垂(足)郡深江郷との、

料により、高志深江国造の本拠地は、蒲原郡・沼垂郡の両郡にまたがる、当時信濃川・阿賀野川の合流して日本海に注ぐ現在の新潟市であったとの推定を確かにしました。大和王権の地方官である、この最北の国造設置は、遅くとも六世紀後半以前と考えられ、『日本書紀』大化三(六四七)年は歳条の淳足柵の設置をさらにさかのぼる新潟市のルーツが明らかになったとも言えます。

(新大文学部教授)



筆者



### 福田 実氏(75回)

## 県陸上競技協会会長に就任

新潟日報一九九四年十二月十七日既報別掲のとおり、前会長近藤元次氏が死亡の為空席となっていた県陸上競技協会第八代会長に福田実氏が昨冬就任されました。今年平成七年は、同協会創立五十周年の節目の年であり、中学・高校で陸上競技活動の経験の

ハースルの手伝いをしたり、国体の期間中には、他県の陸上選手が我が家にホームステイしていたこともありました。日本中がスポーツにおおいに沸いた時期でありました。ところで、私は中学時代から陸上競技をやっておりますが、さすがに高校では、本当に同年生かと疑わせるような、体格的にも記録的にもすごい選手が大勢おりました。そんな当時のことを振り返ると、一番ショックな思い出は「夏の合宿」です。私は合宿と聞き、涼しい軽井沢あたりでの優雅な合宿を想像いたしました。ところが蓋をあけてみると、蒸し暑い本校の教室に畳を持ち込んで、そこで寝泊まりするという、しかも、そこには汗臭いウェアが所狭しと干してあるなどとは。さらに、青海道寛先輩(72回)らが指導に来てくれたのは有り難いものの、いんぎんたむしの治療法の話でもちりきり……。期待と現実のあまりのギャップを身をもって体験したひとコマでした。聞くところによると、最近の本校陸上部の夏期合宿は、湯沢町の旅館で宿泊しているとのこと。時代の変化を痛感します。

### 十字路

〇〇本(この)好き始めたので、部の方の総務に引いて頭の下が思い出した。〇〇会長への就任願(と)と題の弁。今更に何を言っても無意味。福田実氏(75回)の経歴を振り返る。福田氏は中学・高校で陸上競技活動の経験を持つ。二番目の四回、三番目の五年まで、中心に陸上競技部として活動。ある人から「福田実は自分(の)人」の語られていた。



県陸上界のビジョン作成

このたび、縁あって新潟県の陸上競技協会の活動に参画させてもらうことになりました。だが、これまでの運営が、いかに多くの青山同窓会先輩諸兄の熱情あふれるご支援・ご指導によって支えられてきたかを、改めて知らされた次第です。そして私自身、この協会の一員として非力ながら尽力させていただくとともに、母校陸上部には、全日本レベルまでより大きく発展してくれるよう切望するものであります。

## 陸上競技部での思い出

75回 福田 実

私が新潟高校に入学したのは昭和三十九年、新潟国体の

思い出の  
まんだら  
曼陀羅  
35回  
五十嵐久四郎

昭和二十九年に我が母校が一夜にして灰燼に帰した。心から淋しさを感じ五年間学んだ校舎の面影を思いうたた感慨無量なり。(次頁につづく)

(前頁よりつづく)

小生中学五年薬専三年と学んだが、こんな心がうつろになった事はなかった。感傷的だがその運命が情けなかった。思い出を沢山汲みこんだ身体が宙に浮いた。然し早速募金の件で学校から先生がお出でになりお話を聞いて、良しやらなければならぬという考えになり、当時一口一万円というとかかなり大金だったと思つたが小生より力のある先輩諸兄に話をつけなければならぬと先輩の有力者にお願ひし、確か僅か五、六人だと思つたが、話をしたら賛成して戴いた。その足で第四の支店長に話をしたところ、小生は月賦にしたなら一ヶ月千円ずつと考えつき支店長にも諒解され、それでは銀行で毎月個人個人に集金してやりましょう、どうせ受入窓口には第四だから自分の所でやるとやるという言葉を喜び月賦を募金したのでした。後日、学校より確か金沢先生と渡部事務長さんと思ひますが御礼に悠々御出でになり恐縮しましたし、小生も心から嬉しかつ

先輩 人文部教授

永井行蔵先生を偲ぶ

偲ぶ話は前に戻りますが昨年ですか、新潟月刊誌上に人文部教授の故永井行蔵先生の源氏物語の講義を聞いて女子大学生が涙を流したという記事を読み、先生の数々の事を思い感慨無量でした。多感な時期にある女子学生への教育的配慮と多分人情味のある個性豊かな講義だったのでしょう。人生の機微に觸れたものだと思います。今その光景が目に見えるようです。故先生は小生の中学二年先輩でありまして小生は文学少年のまねをしてたのですが、中学三年の頃、白根付近の同窓生と相談し小さな文藝誌みたいの物を作り(刑務所の印刷が一番安いので作りました)、故永井行蔵先生から文章や詩を直してもらつたりその編輯ま

た。母校とは尊い存在だ。少年時代を過ぎた思い出が一番強く心に沁みる頃の年頃なのだ。現在でも一番懐かしいです。(自慢に書いたものでは決してありません。御諒承の程を)

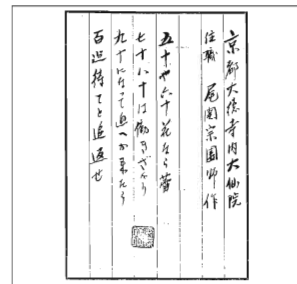
六十回生はみんな神童

60回 坂井丈夫

す。一文を草し謹んで故永井先生の御冥福をお祈りします。年令を気にかけて乍ら前進しようと思つていますが、定められた目標がなくなつたような現在が残念である。一九九五年のきょうこの頃少し本題外ずれになつたようですが感慨を書いたわけです。(白根青山同窓会長)

今年度の同期会は一月に東京港区の新橋亭、三月に柏崎市岬館で開催した。それぞれ三十名余の出席があり盛会だった。柏崎一泊旅行は熊田彰、小林庄一郎、小林智明、佐々木城の諸君が幹事、頑張つて高い宿泊料で有名なこのホテルを上手に値切り「あちこち、齡だて……」などとおっしゃる渡辺秀英先生を、うまくお

誘いしてお出でいただいたのは良かった。渡辺先生は今年八五歳であられるが、ここで私は別掲の昨年京都の大徳寺の和尚さんから戴いた色紙に記された金言を捧げたい。これは本稿をお読みの先輩諸兄も座右の銘にしていただきたいと思う。ところで卒業後何十回と会を重ねている同期会であるが、このたびここは神童の集まりであるということを知った。



なんでも中学一年の一学期の終業式の日、渡された通知表を教室の片隅で掂げながら「……村の神童と言われた俺がこの成績では……」と口惜し涙にくれていた者がいたが、

われわれは中学に入るまでは皆「神童」だったというのだ。市内各小学校から数回つ入ってきたほか、喧嘩の修行に励み遂に覇権を得ていた津川の神童、犬の肉を料理し友人に振る舞つていた矢代田の神童、嘶家になれば良かった古町の神童、水泳部に居てプールの借りに来た女子高校生の豊満な水着姿を見るたびに、勃然と満腔に漲る精気を記録更新の糧にしてた岩船の神童、なんてのがいたらしい。確かに昔旧制中学に入ると「世の中にはこんな出来る奴がいるのか」と愕然としたものである。そこで人に負けずに学業に専念する者と、これは駄目だと諦め別のことで身を立てようとする者に分かれる。しかし卒業後四十余年を経てそれぞれ右顧左眄し紆余曲折を経た挙句辿り着いたところは同じ場所だ。ここでは昔の力関係が復活する。「おい、おめえの力尻に墨子あるろ、おら小学校の男女組で隣に居たっけよう知つてるて、毎日チヨオしてたんだれ、えがってや」咄嗟の間にかかる科白を吐くことができるのは神童

ならではの業だ。正鵠を射られたハーバートビジネスオプスクールを優等で卒えた俊敏な経営者は、気弱に受難の微笑を浮かべるマゾ男に化さざるをえない。小学校の同級生を女房にしたことは、彼にとつて竜の血で湯浴みするジューグフリートの肩に張りついた木の葉であった。それにしても性悪な神童は幾つになつても手に負えない。そしてこういう手合いは頼まなくても結構長生きするもので同窓会には欠かせない。

青山ゴルフ会 春の大会

梅雨とは言え、幸い雨にも降られず、恒例の大会が、六月二十八日、(水) イーストヒルゴルフクラブにおいて開催されました。

この大会は、去年の春、秋と連続してホールインワンが発生した、ゲンのいいコンペで、今年は大だが、と期待したのですが、それはありませんでした。

栄えある優勝は59回飯塚実さん、(ベストクロス82) (次頁につづく)

(前頁よりつづく)  
準優勝は60回小林昭二さんでした。この会は、六十歳以上のシニアとレディスの優勝、準優勝も別枠で表彰しているのですが、今回はお二人に重ねて、もって行かれてしまいました。夜の表彰式で、優勝の飯塚さんより、「絶対におたしの前にでない可愛いレスリング部の後輩小林君……」、などをはじめ、ユーモアあふれる優勝の弁をいただき、その後、順次参加者の自己紹介で和やかな一時を過ごしました。

**在京  
新中三五会の  
集い**

去る四月二十六日、昨年同様の新宿、小田急ハルク八Fの『大志満』にて親睦午餐会を開催。熊倉君も久し振りに出席、全員満八十四才で、耳が遠くなり大きな声の応酬で、声だけでは壮年そのまま、中学時代の恩師の紳名で話題は尽きず、歓談裡に二時解散。写真、前列右から、丸山求蔵、近藤百之、籠島秀雄、笹川正男、入沢健三。後列右から、



山名栄一、尾崎三夫、渡辺秋策、熊倉雄三、岡四四亥 計十名。(尾崎三夫 記)

**58期生  
例会の記  
58回  
青柳廣士**

58期卒業の「玲瀧会」新潟例会が、五月十八日に「万葉庵」で開催されました。「玲瀧会」は、卒業以来、毎年新潟は五月、東京は十一月頃に開かれてきました。当日は、渡辺秀英先生を始め二十六名が参加。始めに八十四才で、なおカクシャクた

る先生から、おなじみ「良寛」の話をお聞きし、乾杯・自己紹介の後は歓談。学校時代の思い出や、第二の職場の事、年金暮らしなどの話に花が咲き大盛会。

自己紹介のなかで「我々は在校中の体罰や、上級生のいじめなどにもめげず、自殺することもなく……」のくぐりには皆ニヤニヤ。

われわれ58期生は、昭和十九年に入學、二十四・二十五年に卒業した面々。入學時は大東亜戦争のまっただなか。上級生からは、何も悪いことはないのに「お前達は生意気だ」とか云われて、校庭(砂利)に座らされたり、ゲ



ソコでの鉄拳制裁はシッパ。(これ分かるかな)漸く我々が上級生になった途端、戦後民主主義で制裁は禁止。云うなれば、「殴られっぱなし」と云う訳。

男女共学にもあずからず、ひたすら戦後を生きた企業戦士たち。せめてもの慰めと、うら若きコンパニオン六名と一緒にになってワイワイ、ギャギャ。

「二時間飲み放題」の終業章は、ただ声だけ大きい校歌応援歌の合唱で散会。三々五々、ネオン輝く新潟駅前の夜の巷へくり出して行きました。

**青山六二回生  
四十周年記念同期会**

同期会は、平成六年十月八日(土)午後五時三十分から、オークラホテル新潟で行なわれた。会の予告案内のあったのが前年の九月、正式案内は開催年の八月。出席申し込みをした全員(一〇五名)が参集した由、大盛会であった。幹事のみなさんご努力に敬意を表したい。開会に先立って記念写真の撮影があった。

十一月初めに届いたその大型写真を眺めてみて驚いた。昔変わらぬ青年男女の顔が並んでいたからだ。目薬をさし、強度の老眼鏡をかけてもう一度眺めてみたが変らない。悠然と、昂然と、ゆったりと、そして優しい目をしたあの頃の顔が、当時ご在職の諸先生方を囲むように、ずらりと並んでいた。この分なら、次会の同期会(平成十一年)はもっとと大人数になるだろう。二次会は東堀九の「なかや」。酔潰れた者一人もなし。再会を約束し、和気あいあいの内に散会となった。受付けで配布された『欠席の方々からのメッセージです』はちよつとした「読み物」で、好評だった。

「付記」・同期会での校歌斉唱の指導をお願いできないものかと思ひ、村山久子先生にお電話してみた。先生「有り難いことだと思ひます。当時の生徒さんたちからいろいろお招きいただきますが、何かの都合で出席のかわないこともあるかと思ひ、あそこへ行ったのここへは行けなかったというのでは、お招きくださる方々に失礼になる、

そんな気持ちからいつも辞退してしまいます……どうぞ悪しからず、62回生のみなさんにはくれぐれも宜しくお伝えください……それから、どうぞ、いつでも、みなさんでこちらにお出掛けください、いい温泉もあります、この間は〇×さんたちが見えて、久しぶりに歓談しました……」  
●青山同窓会会報第59号に「村山先生の思いで」と題する一文が見られる。昭和二十六年四月に入學して村山正先生ご担任の一年D組の生徒の一人となった筆者としては、懐かしく読ませてもらったところもあるが、後半部とりわけ「幕が開き可愛い女生徒が現われた」以下はいただけな「女生徒」の気持ちを考えると胸が痛む。失敬だと思ふ。これは筆者だけの気持ちではないようで、此度の同期会でも実感した反応である。特記しておく。(小黒昌一記)  
ご出席の恩師  
井上一和、大橋禎助、小黒英作、志賀哲夫、高橋是成、武田慎三郎、田辺啓三、藤田久喜、松浪清の各先生。

# 73回生 卒業三十周年同期会

## 73回 篠田 孝

私達が高校三年生の年、昭和三十三年は新潟にとっても、日本にとっても記念すべき年でした。

東京では十月にアジアで初めてのオリンピックが開催され、日本の戦後復興、国際社会への復帰が高らかに宣言されました。

一方、新潟では毎春秋に開催されていた国体が、オリンピックの關係で六月に第十九回国民体育大会として開催され、体育部の面々は地元国体への出場を目指し受験勉強も忘れ頑張っておりました。又、何人か、炬火・国旗のリレーに参加するという四十数年に一度の幸運に恵まれた者も居りました。

その興奮もさめやらぬ十六日、新潟市はマグニチュード七・五の新潟地震に襲われました。激しい横揺れで、電柱が右に左に揺れ、地下水が激しく吹き出した様が昨日の事のように思い出されます。幸いにも、学校関係者で亡く

なられた方も無く、数日で授業も再開されたと記憶しております。

さて、前書きが長くなりまして、昭和四十年(73回)

卒業の私達は今年卒業三十周年の節目の年を迎えました。昨年七月十五日開催の青山同窓会総会の二次会の席で、酔っ払った勢いで同期会の時を平成七年五月十三日、所を昭和六十年に二十周年、三年遅れの二十五周年同期会を平成五年に開催した、新潟と東京の真ん中の越後湯沢と決め、その場で湯沢グランドホテルに電話をし、過去二回の参加人員の倍の二百名の仮予約を致しました。

準備の立ち上がりは早かったのですが、酔いが醒めると熱気も記憶も失せて、十一月十三日にホテルから半年前の予約確認の電話を頂き、手帳を見るまでは予約した事も失念をしたという体たらくでした。それで後六カ月しかないと思えばよいのに、懲りず

に未だ六カ月もあると高をくくり、時間ばかりが経過を致しました。



すったもんだが有りましたが、何とか当日を迎えることが出来ました。参加者数は当初の意気込みとは裏腹に過去三回で最低の八十五人で、初めて出席率二割を切っていました。が、当日の盛り上がりは前の集いにくらべても勝るとも劣らぬものでした。初

めにご臨席を賜りました志賀先生、小田先生、関根先生から其々お人柄の溢れるご挨拶を頂戴し、横山先生の乾杯のご発声で開宴となり、最後「ますらお」で閉めるまで、あつという間の楽しい三時間を過ごしました。その後の二

次会、三次会、客室での語り、飲み飲みが何時まで続いたかは幹事の与り知らぬ事ですが、参加者が一日ぶりであり、真正正銘三十年ぶりであり、各々の再会を堪能して頂けたのであれば幸いです。

### ラグビー部

The day old boys meet youths

80回 阿部哲夫

(青山ラグビークラブ幹事長)

網雲の遙か彼方に、真夏の太陽が南中する頃、母校グラウンドでのラグビー祭は、まさにクライマックスを迎える。肉汁と脂が炭火に滴り、パチパチ弾ける音と共に、白い煙と赤い炎が上がる。食欲をそそる匂いがグラウンドを覆うと、先ほどまで楯円球を追っていた現役生徒が、先ず上級生から火床の周りを我先に取り囲む。卒業して一・二年の若いOBも、この時ばかりは先輩の威厳が通用しない。まるで堅いスクラムかモールのように、彼等はその輪をブレイクしない。夏の合宿も最終日を迎え、肉体は極限まで酷使されているはずなのに、用意した十五キログラム程の牛肉も、可愛いハイエナに見込まれては、大山もまた空しい。上級生に対して、下級生の視線も徐々に厳しくなる。

会費三五〇円也を払って、激励が集まったOB達は、パーベキューが始まる前に茹で上がった枝豆とソーメンをつまみ、生ビールを飲み、青々としていた枝豆も、炎暑でアツという間に変色してしまう。しかし、久し振りにゲームで悲鳴を上げている喉に、営業用の大生樽4個からの冷えたビールが旨い。飲むそばから、汗となって発散していく。いつの間にか同期生同士の小さな輪が咲き、大ジョッキを干すほどに、久闊を叙するほどにその輪は前後二、三期を交えた輪に広がり、やがては一つの大きな輪になる。

ようやく下級生やOBにも肉が行き渡ると、鉄板を熱して、野菜タップリの焼きソバが振る舞われる。さしもの現役達も満腹し、合宿の疲れと相俟って、横になる者も始める。暑さが最高潮に達し、生徒の間にやや気怠さも漂い始める頃、今度は氷水で冷やした西瓜にオレンジ、グレープフルーツの登場と、実に見事な演出。

幹事長の号令のもと、参

(次頁につづく)

(前頁よりつづく)

加者全員で大きな輪を作る。それぞれが自己紹介し、灰野監督からのその年の戦績報告と花園への抱負等を語ってもらった後、関根彰圓先生の手になる部歌の大合唱。♪陽光麗ら、鳥屋野瀉……♪

「冗長な描写をしてしまいました。私共、青山ラグビー祭は、毎年八月の第一日曜日に行われます。このイベントは、昭和六十年と六十一年の年末に、後輩が悲願の花園に連続出場を果たした際、募金や応援活動などを通じて、これまでになく現役とOB、父兄との絆が深まったことを受け、折角の密度濃い交流を絶やしてはならずと、時を置かず六十二年の夏から始まったもので

す。それまでの後輩との繋がり、一部の有志が夏合宿の差し入れをしたり、練習を指導するほか、十一月三日の葦原との定期戦に現役チームとOBチームがそれぞれ出場する程度でした。また、クラブ自体も上記の試合のためとOBの懇親会のための組織に過ぎませんでした。

尤も、その他に72期折戸明氏(慶大が学生チャンピオン時のメンバー、全学生メンバー)が、自らバスを駆って、母校の日吉グラウンドに春合宿として遠征に連れていくのも恒例となりました。この件については、また、機会があればご報告致します。

ラグビー祭は今年で九回目となりませんが、参加者は年を経るごとに多くなり、今では、OB会員六五〇名(各種の案内のための通信費用だけで年間二十万円以上要します)のうち、百名近くが集まるようになりました。有り難いことに、父兄、並びにOBの奥さんや子供さんまでお見えになり、どんどん輪が広がっています。何よりも嬉しいのは、若い大学生が多数来てくれる

ことにより、高校生との試合が充実するようになったことです。その年によって若干違うものの、OBを三チーム程度に分け、現役の一三本目とそれぞれ試合をします。もちろんOBは、体力の問題と全員参加の趣旨から、入れ代わり立ち代わりの出場となります。

二、三時間ゲームをした後、上記のように、焼き肉と焼きソバのバーベキュー、枝豆、ソーメン、果物などの野外大パーティーとなるわけです。尚、申し遅れましたがこのパーティーの、調理用具の提供、調理全般は、市内のラグビーチーム「ラグビーアーズ」(71期、山内幹夫氏代表)の全面的な協力によるものです。紙面をお借りして、心から感謝申し上げます。

今年の三年生チームは、春の県総体決勝戦において宿敵巻高校を三十二対〇で下し、見事栄冠に輝いております。このままいってければ、花園も近く、その際には同窓の皆様方に大なるご協力をお願い申し上げます。結びにしたいと存じます。

最近、一週間に亘って、NHKの朝のニュースで佐渡の海が紹介された。七時三十分から五分程度であったが、六日間連続関東甲信越に放映されたとのことである。私は、丁度、食事時で欠かさず見ることが出来た。海と云っても、海岸線や岩場の美しさではなく、水深二十〜三十mの海中の景観である。

### 私の趣味

## 佐渡の海と私

67回 菅沼重登

魚あり、海藻あり、水生植物などが多数撮し出され、海底温泉や海藻の草原、沈船なども紹介された。紹介者は佐渡のダイビングインストラクターである正司さんであった。

私と佐渡の海との係わり合いは一年程前に遡る。新潟に戻って二年になるが、時々、親元に帰省していたことを抜きにすれば十八年が新潟での生活、三十五年が他県での生活ということになる。戻って一年目、十日間程寝込んでしまった。寝込んだと

云つても風邪をこじらせた程度であったが、扁頭腺をやられて、四十度近い熱が四日程続いた。こんなに寝込んだのは近來にないことであった。体重は六kgも痩せてしまった。全国を股にかけて歩いてきたビジネスでの歴戦の勇士を自認していた私にとっては少々ショックであった。五十過ぎて初めて出向というところで、他人のメシを食ったことから気分悪い過ぎて疲れたことだど結論づけた。

初めての会社でのストレスを頻繁に古町で解消するという身体にとつてあまり良いことをやってこなかったツケを払わされたのだと反省した。人生も折り返しを過ぎたのだから、もう少し健康で豊かな仕事にも精を出せる人生を送れないものかと考えた次第である。

そこでスポーツをやってみようと思いついた。スポーツでストレスを解消し、リフレッシュを計って併せて身体を鍛えようとスポーツクラブに入会した。

大変恥ずかしい思いをしながら、若い女性や御婦人に混ってまず水泳をやり始めた。少しは泳げると思っていたのだが、フォームが自己流でまるでダメ、一からやり直さなければならなかった。折しも去年は雨が全く降らず連日猛暑であったので、水が恋しくてたまらない日々が続く、プールに通う日も多かった。

コーチからトレーニングを受け百mぐらいは楽に泳げるようになった。自分なりに小さな達成感があり、気分も爽快であった。六kg痩せた体重はそのまま筋肉質に変わったような気がした。

次に何か目標にするものはないかと考えていた矢先、スイミングプールの隣にあったダイビングプールが目にとまった。少々金が必要であったが、払ってしまえばやらざるを得なくなると思い講習を申し込んだ。

年の所為か、若い人より遅く (次頁につづく)



(前頁よりつづく)

れ気味であったが、三カ月で資格を取得することが出来た。苦勞したのは耳抜きで、耳から鼻にぬけるパイプ(日常生活ではあまり使っていないと思われる)が五十年も使っていなかったのでつまっていたのではないかと思われる。

講習の最後は佐渡での二日間の海洋実習であった。この時、佐渡のインストラクター正司さんに初めて会ったのである。

大変クレバーで親切な方で、できの悪い私にも実に丁寧にインストラクションしてくれた。一応、身につけた技術、せめて人並みにとそれから毎月、日曜日、佐渡の彼の元に通って、ダイビングに参加するようになった。これは九月から一月迄半年続いた。さすがに風雪まじりの冬の海上は冷く肌が凍えた。

そして二月、待望のパラオ行きを実現させたのである。正司さんが自分が同行しませからと云ったのが、決断の誘因になったことはまちがいない。

佐渡の海も透明度が高く、様々な生物が住んでいてすばらしいが、南国パラオの海は筆舌に尽し難い美しさで実に色とりどり、そして色鮮やかで透きとおって、マリンブルーと云われるあの青さもなんとも云えなかった。まるで竜宮城とはこんな景観なのかと感動の連続で、まさに息をのむ場面がしばしばであった。

陸上より海中の方が人の手に侵されていないだけ、生物の種類も多く自然の景観がそのまま見れるような気がする。そして見知らぬダイバー仲間と知り合いになるのも実に楽しい。

折角、海に恵まれた新潟県に戻ったのだから、佐渡の海をそして時には南の海へも出かけて、海の感動を大いに堪能し、気分のリフレッシュを計り、健康増進を計って、仕事にも精を出したいものだと思っている。

人生の折り返しを過ぎた今、唯一度しかない、この私の人生を大いに楽しく豊かに過したいものだと思っている。

この度新潟高校時代、昭和三十八年から十年に渡って山岳部の顧問を努めていただいた片岡 久先生が三月、中央高校を最後に定年を迎えられました。そこで、去る五月二十七日、二十八日にかけて山岳部OBにより、永年の御指導に感謝を込めて越後中里の松川屋にて祝う会が催されました。当日は新潟在住、及び関東、山形から二十七名のOBが参加し、それぞれ思い出話を花を咲かせていました。

### 山岳部OB会 片岡先生の第二の人生を祝う会

79回 石沢 浩

フコースに別れて親睦を深め、再会を約して散会しました。



### 後輩の活躍

#### ラグビー部

##### 六年ぶり県優勝

県総合体育大会

◎陸上 女子四〇〇Mリレー

三位(阿部 和田 坂野)

◎サッカー 三位

◎ラグビー 優勝

◎柔道 軽量級 二位 飯田

◎剣道 男子団体 三位 男

◎登山 優秀校

◎剣道 男子団体 三位 男

◎登山 男子 優秀校(三位)

◎フェンシング 男子団体 二位

フルール 三位 原 重敏

サーブル 二位 原 重敏

エペ 三位 千田洋平

女子団体 優勝

フルール 一位 杉本祥子

二位 堀 彩統子

エペ 二位 斎藤春美

第四十二回NHK杯全国高校放送コンテスト県予選会

◎放送 創作ドラマ・ラジオ部門 一位

◎囲碁 女子団体 優勝

◎囲碁 男子個人 準優勝 大山泰

◎将棋 塚崎孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

◎将棋 碓氷孝

### 職員の変動

(平成七年四月)

◎退出先 全目制 退職 転出 転出先 教頭 樋浦 卓嘉 小出高校 長

◎退出先 教諭 武田 英徳 県教委指 導主事

◎退出先 教諭 小林巴彦 国際情報 高教頭

◎退出先 田辺 隆 新津高 退職

◎退出先 皆川喜代弘 退職

◎退出先 非常勤講師 小田 一彦 辞職

◎退出先 山田 洋宜 新潟北高 講師

◎退出先 富永 浩子 直江津高 高

◎退出先 塩谷知江子 長岡大手 高

◎退出先 通信制 児玉 伸 十日町総 合高教頭

◎退出先 教諭 田原 賢一 長岡大手 高

◎退出先 中田 亮一 巻高

◎退出先 山田 順和 巻高

◎退出先 常勤講師 西條 隆 新潟商業 高

◎退出先 塩谷知江子 長岡大手 (次頁につづく)

(前頁よりつづく)

常勤講師

内山 豊彦 柿崎高講

事務

中野 久男 近代美術

館副館長

非常勤講師

外山 東子 新潟高講

師

主任 小林 綾子 法人自税

主任

非常勤講師 富永 浩子 直江津高

事務 中谷藤太郎 柏崎福祉

事務長 所長

庶務係長 小柳 ノブ 退職

主任 松原フミ子 新潟向陽

高主査

全日制 転入 転入先

教頭 桐山 元 村上高教

教諭 遠山 千勇 柏崎高

熊木 正人 国際情報

岩見 敏明 西川竹園

阿部 直人 寺泊高

小杉 仁 新津高

田中 芳晴 新潟西高

常勤講師 井上真理子 糸魚川商

工高

通信制

教頭 片山 達雄 柏崎高

教諭 春川 耕平 新発田高

鈴木 美幸 小千谷高

生野 貴子 新潟東高

# 母校での教育実習

## 100回 松原麻智子

長いと思っていた二週間の教育実習は、始まったらあつという間に終わってしまった。正直言って、教育実習がこれほど楽しく、実り多いものだとは夢にも思わなかった。この二週間、毎日夜遅くまで翌日の授業の準備に追われ、体力的にはかなり無理をしたが、つらいと感じたことは一度もなかった。それどころか、毎日学校へ行くことが楽しくて仕方なかったのである。

青陵祭前ということもあり、授業中の生徒達は皆、いくぶん疲れているように見えたが、放課後ともなると学校全体が活気づき、生徒達も生き生きとしていた。私は女子大に通っていることもあり、このような熱気に包まれた雰囲気味わうのは久しぶりだったため、

とても懐かしく、また新鮮に感じた。在学中は当然と思っていたが、わずか一週間たらずであっただけのものを準備してしまふのだから大したものである。県高生のパワーを改めて認識した。私はもうこの時代には戻れないが、生徒達が一つのことには一生懸命取り組んでいる姿を見ているだけで、「私も頑張ろう」という気にさせられた。

授業の方はといえば、毎日毎日失敗の連続だったが、不思議なもので生徒との距離が近づけば近づくほど、抵抗が少なくなっていくようになっていった。自分が大変思っていたと感ずるのは、生徒達がみな真剣に、私の発する言葉に耳を傾けてくれたことである。そればかりか、「先生の授業

分りやすかった」と声をかけてくれる生徒もいて、とても嬉しかったし、何よりも励みになった。実習中、英語が得意な生徒にも苦手な生徒にも英語の面白さをもっと伝えることができたら、と何度も思ったが、今の私ではまだまだ力不足であり、予定していた内容をこなしていくのが一杯で、全体的に枠にはまった堅い授業になってしまった。だが、毎日できる限りのことをしようという心がけて頑張ったので、その点では非常に満足している。毎日少しずつだが自分が進歩していると感じ、こんなことは生まれて初めてだったため、とても感動した。日々試行錯誤の繰り返しだったが、こうして思い切ったことが、こうして思い切ったことが、こうして思い切ったことができたのは、諸先生方はもちろんのこと、生徒達も皆暖かく見守ってくれたおかげだと思う。

最終日、ホームルーム担当のクラスの教壇に立つと、胸がいっぱいになってしまい困った。結局、話そうと思っていたことの半分も話さないまま、挨拶を終えてしまったのだが、生憎な言い方をすれば彼らは私にとって初めての生徒であり、決して忘れることができないと思う。何も考えずに

じっとしていると、次々に生徒の顔が浮かんでくる。二週間という期間ながら、その短さを忘れてしまうほど充実した日々であり、今までの自分の人生の中でも五本の指に入るほど深く心に刻まれる出来事であった。

無我夢中の二週間だったが、これからの人生を歩んでいくうえで、この実習で得たことを決して無駄にせず、さらに人間的に成長していきたいと思う。本当に有意義な教育実習をどうもありがとうございました。

- |        |       |      |     |       |
|--------|-------|------|-----|-------|
| 良丹昭夫子  | 彦恒    | 博    | 宏   | 弥     |
| 信 憲和節  | 邦明    | 雅    | 一   | 静     |
| 田藤阪田田  | 木卷    | 戸    | 藏   | 浪     |
| 奥後田前山  | 植田    | 中    | 神   | 船     |
| 夫 裕一三宏 | 郎秀子   | 郎雄藏  | 博新二 | 資     |
| 幸 弘健   | 文     | 耕幹代俊 | 研   | 裕     |
| 内 一 幸  | 文     | 方野美  | 場   | 野     |
| 堀 阿小田平 | 関広藤   | 味佐多  | 馬渡渡 | 加     |
| 介爾徹夫   | 一樹勝三夫 | 昭尚子  | 助子子 | 誠子    |
| 一 克    | 清     | 栄芳   | 功嘉  | 正     |
| 川石原山   | 井尾山   | 林山   | 井原橋 | 波田木山  |
| 小竹西横   | 敦寺西   | 平横   | 今笠高 | 龍戸樋村横 |
| 代 昭    | 坦弥幸   | 實作俊治 | 一 治 | 郎葵也   |
| 喜美     | 常正    | 周 弘  | 修孝成 | 一 三   |
| 浦田     | 村林橋   | 川川山田 | 橋滑居 | 城田形   |
| 三横     | 木小高   | 立早村和 | 大木鎗 | 居池行   |
| 一 宣    | 文義    | 望隆介  | 義吉博 | 一 夫   |
| 良 善和   | 賢德    | 洋    | 義生成 | 敬敏    |
| 野中澤    | 村藤川   | 木川村  | 村田崎 | 崎沢    |
| 紫田古渡   | 木近笹   | 鈴中田  | 中福三 | 渡山宮   |
|        |       |      |     | 片村坂   |
|        |       |      |     | 白西福   |
|        |       |      |     | 羽     |

### 平成七年度 大学入試結果

十八歳人口は年々減り続けており、ピーク時の平成二年に比べて、今春は約二〇万人減の一八六万人です。この内四八%の約八九万人が大学、短大を受験し、約五六万人が入学しています。進学率が三〇%台になり、更に高学歴社会へと進んでいます。現在大学の数は国立大学が四一六校、私立大学が四〇六校、短大五九六校ありますが、二十年前と比べて一・三倍に増加し、大学の門戸が広くなり、大学教育が大衆化してきています。単に大学を出ることはエリートではなく、大学で何を学んだか問われる時代になってきました。社会が大学卒業生に求めるものも大きく変わってきております。それとともに大学も大きく変革をしてきております。また、高校の教育現場も時代の要請に応じて変わろうとしています。本校に理数科が設置されたことや二期制六十五分授業が導入されたことなどがそのあらわれ

の一つです。

さて、今春本校卒業し、青山同窓会に入会しました新会員は四八五名です。その進路先は大学等進学者数二六九名、就職者数三名、浪人者数二三名となりました。全国の志願動向と同じように国立大への志向がますます強くなり、長引く経済不況もあって、実学系の分野を志望する者が多くなりました。また、女子生徒の躍進が今年の特徴の一つであります。運動部等で活動しながら勉強と両立させて難関大学へ進学した生徒が多くいますことは、本校ならではの一面であります。今年の結果の中で偏差値が六〇以上の難関大学への合格者数では近年では最も多く、その大学も全国的に広がったのが今年の特徴の一つです。このことは全国的に視野を広げ、自分の適性に合った大学を選ぶことの大切さを強調していることと第一志望の合格率が三ポイント上昇したことを考え合わせますと意義あるものと評価しています。また、現浪合わせて国立大学への合格者数が三三一名の数は全国の公立

### 平成 7 年度入試 主な大学合格者数

国立	公立	大	合格者数	私立	大	合格者数
新潟	111	(74)	私大	35	(10)	
北海道	14	(9)	早稲田	28	(12)	
旭川	1	(1)	慶応義塾	25	(4)	
弘前	2	(1)	中央	24	(8)	
岩手	1	(0)	明治	13	(6)	
東北	26	(18)	立教	22	(4)	
秋田	3	(0)	法政	31	(8)	
山形	2	(1)	日本	10	(5)	
福島	1	(0)	智恵	15	(9)	
茨城	1	(1)	学院	40	(11)	
栃木	1	(1)	理科	1	(1)	
群馬	17	(14)	協業	28	(14)	
宇都	1	(1)	工業	6	(0)	
群馬	1	(0)	亜細	4	(1)	
埼玉	10	(2)	習志	6	(0)	
千葉	13	(10)	北里	6	(0)	
東京	7	(3)	國學院	6	(0)	
京大	10	(8)	駒澤	15	(4)	
京学	5	(4)	工芸	4	(2)	
京学芸	2	(1)	沼田	3	(1)	
東京農工	6	(4)	昭和女	5	(1)	
東工大	6	(3)	成城	4	(1)	
お茶の水	3	(0)	専修	10	(1)	
電気通	9	(7)	大東	1	(0)	
一橋	14	(13)	津田	5	(4)	
国立	1	(1)	東海	13	(4)	
長岡	3	(2)	東京	2	(1)	
富山	2	(1)	東京	5	(5)	
山医	8	(5)	東京	4	(0)	
金沢	2	(1)	東京	5	(1)	
山梨	2	(1)	東京	2	(0)	
信州	7	(2)	日本	6	(1)	
名古屋	4	(2)	女子	3	(0)	
京都	6	(5)	武蔵	10	(3)	
大	1	(1)	明治	10	(3)	
阪外	2	(1)	神奈川	11	(3)	
神戸	2	(0)	関東	1	(0)	
女子	4	(3)	金沢	3	(0)	
高崎	3	(2)	同志	5	(2)	
東京都	4	(2)	立命	39	(13)	
立大	3	(1)	関西	10	(2)	
横市	11	(0)	近所	4	(2)	
計	330	(205)	計	112	(30)	

( ) 現役

次に私立大学については首

(進路指導部長 中村新平)

の高校にあつては上位であり、学級数が多いこともあり、本校の名を高らしめている一面であります。現役勢の個々の大学合格者数で目立つのは北海道九名、東北大一名、筑波大一名、一橋大七名等であります。しかし、国立大入試の前半A、前期日程では昨年より良い結果でしたが後半の後期日程では例年の精彩がありませんでした。新潟大の合格率が四割を割っていますことは大学入試指導の難しさを示しているものであり、学校としても生徒の意欲向上や学力向上のための独自の方策を確立していくことが求められてきているように思います。

都圏の主たる大学を中心に志願者、合格者ともに人数が減少しました。この数年の傾向であります。これは全国的流れでもあります。この要因の第一は受験人口の減少ですが、加えて社会・経済的動向が影響しているものと考えられます。今後とも私大入試は大きく様相が変わっていくものと思われま

入試結果からみまして本校生徒にはまだまだ潜在的には高い能力をもっており、それを引き出すことの大切さを感しております。

今後とも同窓の皆様のご理解をいただきますとともにご協力をお願いいたします。

### 平成六年度青山同窓会会費納入者追加分

(1月より3月までに納入のもの)

納入先 (郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会)  
第四銀行学校町支店口座 0275210 青山同窓会

- |       |      |      |      |      |      |          |      |      |      |      |      |
|-------|------|------|------|------|------|----------|------|------|------|------|------|
| -40回- | 阿部富衛 | 小樋真  | 林口嶋  | 好嶋   | 岳通明  | -54・55回- | 高井真一 | 笠倉大永 | 原嶋門井 | 忠紀啓克 | 克夫治孝 |
| -41回- | 藤家之助 | 藤家之助 | 藤家之助 | 藤家之助 | 藤家之助 | -56・57回- | 藤家之助 | 奥木河高 | 村野繁  | 樹明誠藏 |      |
| -42回- | 清作   | 清作   | 清作   | 清作   | 清作   |          | 佐藤大川 | 高水   | 村野繁  | 樹明誠藏 |      |
| -45回- | 基三郎  | 基三郎  | 基三郎  | 基三郎  | 基三郎  |          | 小野田  | 高水   | 村野繁  | 樹明誠藏 |      |
| -46回- | 野藤俊夫 | 野藤俊夫 | 野藤俊夫 | 野藤俊夫 | 野藤俊夫 |          | 野藤俊夫 | 高水   | 村野繁  | 樹明誠藏 |      |
| -48回- | 野原是房 | 野原是房 | 野原是房 | 野原是房 | 野原是房 |          | 野原是房 | 高水   | 村野繁  | 樹明誠藏 |      |

# ハイティーン水泳

## 新中・新高

### 60回 平田大六

#### 36 楽勝

第三回新潟県高等学校水上選手権大会、今なら高校総体であろう。一九五〇年七月二九日、長岡市の悠久山プールであった。このプールが、当時県内では三つしかない長水路(五〇m)の一つであるけれど、田んぼの水をひき入れていたため、濁っていたをそこに泥がたまり、時々ドジョウも見かけたことは、以前お話しした。〔註〕

私は高校二年生。この大会でも四百、八百ともに優勝しているのに、あまり記憶がない。保存してある賞状にも、時間が書かれていないのだ。残っている私の日記には「予選を軽く通過、決勝また堂堂優勝、ここに猛練習の成果なる」と記されてある。青春の気負いたった姿が、まる見える文章で恥ずかしい。あれほどおびえさせていた佐渡高校の選手たちは、どう

本)、江口良助(61回)の三人は、もう一日長岡に残れ、という命令である。泊るところはあるんですか、とたずねると、

「泊るゼン(銭)なんかあるばや」  
「どうするんですか。」  
「ジャベ共(ども)にたのんでみるわい」

ジャベ共というのは、新潟中央高校(女子)水泳部のこと、私たちが秘かに用いていた「尊」称である。

「あいつらはな、誰かの親類の家へタダで泊ってるんだわや」

「そして、もう一晚泊って明日(あした)長岡博覧会見物しらんと。オラもそうしよれ。あいつらが帰らんうちにたのんでおくすけえ」

大黒監督は、ここまで一気に話されて、すでに着がえをはじめた中央高校の陣地へ乗りこんでゆかれた。やがてすぐ、肘(ひじ)を曲げて拳(こぶし)をつきあげるポーズでニコニコしながらもどつてこられた。

明日三十日、長岡高校のプールで、元オリンピック選手石原田の水泳指導会があるから、平田、青柳淳夫(60回現姓山

「OKらったわい」  
「つづいて、

「オレは別に泊るところあつすけ、オマエら三人やつかいになつて、明日朝に長高のプールへ来いやな！」

大勢の乙女たちの泊っている宿へ男子生徒三人をタダでもぐりこませるといふ、これが二十歳なかばの青年とはいへ監督のやることか、と今も思うが。

私たちが興奮していた。中央高校の女生徒に連れられていった宿は、やはり普通の民家であった。私たち三人の部屋は玄関の右の出っぱったところ、女生徒は反対の左の奥の座敷、居間と食堂の兼室がその中間にあるという間取りで、それらはほとんどくつついていた。

まだ夕食前で、私たちは自室でそわそわしていると、

「あんたたちもこっち来(こ)いてえ、どうせ飯も一緒らね。」私より一年上のアネゴ格にうながされていつてみる

と、女生徒は全員居間に寝そべっていて、余った者が奥の座敷にはみ出している、とい

う形になっていた。ガヤガヤ。彼女らも大会ではひと通りのレースをしたはずなのに、そんな内容ではなくて、カアちゃんがたの世間話のような中身ばかりだった。時々私たちにも話しかけてくるが、返事のしようもないような内容のものが多かった。大会を終えたという解放感だろうか。あるいは、おおげさに云えば夢にまでみた乙女たちの、これが本当の姿なのだろうか。きついジャンプのような香りと、すえた匂いの混じった部屋の中で私はボーッととしていた。

出来たよう！  
台所から声がかかって、女どもはいっせいに立ちあがって、食事の準備をしはじめた。さあ！あんたたちも！

「粗大ゴミ」という用語はその頃まだなかったけれども、そのようなものだった。やがて、彼女らは、たいへんな勢いで食べはじめた。あ

あ。(つづく)

〔註〕本誌52号・七ページ(一九九一)

◎恩師渡辺秀英先生と60回の絆はご覧のごとく太く強い。先生の教え子を思う心もまたありがたいものです。

◎小林氏の歴史考察、出土品により、新潟の歴史の古さが証明されます。故郷に誇りを。

◎校舎焼失、その再建への苦勞、先輩、PTAの努力の成果の校舎が今勤めを終えて改築されます。五十嵐さんの思いを味わって下さい。

◎ますますお元氣な、35回をはじめ、四十周年の62回、三十周年の73回、他、楽しい同期会のご報告です。幹事諸君のご苦勞に感謝しましょう。

◎部活を通じての、師弟、先輩後輩のつながりは、同期とまた違った交わりです。ラグビー部、山岳部から寄稿がありました。他のクラブも会合の様子、寄稿をお待ちしています。

◎五十の手習い、菅沼氏のスキューバダイビング、水面下の景観にとりこになったようですね。こちらでお願いして書いてもらいました。

◎次号も盛り沢山の寄稿をお待ちしています。(石)

### 編集後記

◎小林氏の歴史考察、出土品により、新潟の歴史の古さが証明されます。故郷に誇りを。

◎校舎焼失、その再建への苦勞、先輩、PTAの努力の成果の校舎が今勤めを終えて改築されます。五十嵐さんの思いを味わって下さい。

◎ますますお元氣な、35回をはじめ、四十周年の62回、三十周年の73回、他、楽しい同期会のご報告です。幹事諸君のご苦勞に感謝しましょう。

◎部活を通じての、師弟、先輩後輩のつながりは、同期とまた違った交わりです。ラグビー部、山岳部から寄稿がありました。他のクラブも会合の様子、寄稿をお待ちしています。

◎五十の手習い、菅沼氏のスキューバダイビング、水面下の景観にとりこになったようですね。こちらでお願いして書いてもらいました。

◎次号も盛り沢山の寄稿をお待ちしています。(石)